

平成26年度

橋梁技術発表会及び講演会

— 100年橋梁を達成する技術 —

参加費無料
定員250名
申込先着順

会場 レソラNTT夢天神ホール5F
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神2-5-55
Tel.092-781-8888

平成26年
日時 11月28日(金)
13:00~16:50

13:00~13:10

開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会
会長 藤井 久司

13:10~13:25

橋建協報告

広報委員会

申込方法

- ①Fax. 092-475-6255(裏面の用紙に記載)
②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受け」まで(受付は9月下旬から)

申込期限

平成26年11月14日(金)

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会 九州事務所
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-2-1
(日本生命博多駅前ビル)日立造船内 Tel. 092-475-6255

継続教育

CPDS認定予定

※東京地区は 10月10日(金) 銀座プロッサムホール
大阪地区は 10月17日(金) ドーンセンター
東北地区は 11月 7日(金) 仙台国際センター
北海道地区は 11月14日(金) ホテル札幌ガーデンパレス
中部地区は 12月 5日(金) 東建ホール 開催です。
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

第1部:技術発表会

13:25~14:05

1.製作技術の変遷と今後の展望

製作小委員会 製作部会 加藤 千明

14:05~14:15

休憩

14:15~14:55

**2.日本と米国における
取り替え鋼床版事例の調査報告**

床版小委員会 鋼床版部会 松下 裕明

14:55~15:35

3.震災時における補修・補強事例

～応急対応から本復旧まで～

保全委員会 保全第一部会 田中 寛泰

15:35~15:45

休憩**第2部:特別講演会**

15:45~16:45

**1.道路橋の損傷調査及び
補修計画立案の経験から学ぶこと**

九州大学大学院 工学研究院
社会基盤部門 教授
日野 伸一



16:45~16:50

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会 委員長 上原 正

**第1部:技術発表会のPPTはホームページに掲載しますので、
ご希望の方はダウンロードお願いします。**

アクセス

- 西鉄福岡(天神)駅から徒歩2分
- 地下鉄空港線天神駅から徒歩5分
- 地下鉄七隈線天神南駅から徒歩5分
- JR博多駅から天神まで地下鉄で5分
- 福岡空港から天神まで地下鉄で11分
- 天神バスセンターから徒歩3分

1 製作技術の変遷と今後の展望

国内の鋼橋製作の歴史は130年余りを数える。近年、原寸のCAD化、NC切断、シミュレーション仮組などIT技術活用に伴い製作精度は格段の進歩をとげ、複雑かつ芸術性を兼ね備えた橋梁も誕生してきた。また、鋼材の進歩に伴う溶接技術の発達、自動溶接機に代表される様々な自動化、非破壊検査の適用拡大等、新たな技術の導入も進んでおり、耐候性鋼橋梁に代表される長寿命化に向けての取り組みも、一層活発になりつつある。橋建協創立50周年にあたる今年、鋼橋製作の歴史について振り返る。

2 日本と米国における取り替え鋼床版事例の調査報告

取り替え鋼床版は、日本では古い基準で設計、施工された橋梁のRC床版更新時に、橋梁本体の耐震性と耐荷力の向上を目的として採用することが多い。米国では、それに加えコンクリート系床版の劣化損傷が問題となり、100年以上の耐久性が期待できる床版構造として採用している。

今後、都市部で計画されている大規模更新工事などにおいて取り替え鋼床版のニーズが高まると考えられるので、日本と米国における取り替え鋼床版の事例を調査した。

3 震災時における補修・補強事例

～応急対応から本復旧まで～

阪神淡路大震災以後、耐震基準の見直しに伴う耐震補強の効果により、先に発生した東日本大震災における鋼橋の被害は、津波によるものを除けば大きな損傷は少なかった。

しかし、我が国は地震国でありその発生頻度は高く、今後もその緊急な対策・対応、恒久的な補修・補強対策は必要不可欠である。また、橋梁の高齢化により保全の時代と言われている現在、震災時以外にも応急対応などが必要となるケースも予想される。本報告は、過去の震災での経験を次に活かすために、応急対応から本復旧までの補修・補強事例を紹介するものである。

特別講演会

1 道路橋の損傷調査及び
補修計画立案の経験から学ぶこと

日野 伸一

九州大学大学院
工学研究院 社会基盤部門 教授

一 学歴・学位一

1975年3月 九州大学工学部土木工学科 卒業
1977年3月 九州大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻 修了
1980年3月 九州大学大学院工学研究科博士後期課程土木工学専攻 単位取得の上退学
1983年4月 工学博士(九州大学)
論文題目: 鋼継手を有する鉄筋コンクリート部材の強度と変形に関する研究
1992年3月～1993年3月 米国ノースカロライナ州立大学訪問研究員

一 職歴一

1980年4月 九州大学工学部土木工学科 助手
1983年6月 山口大学工学部土木工学科 講師
1984年6月 同 助教授
1986年10月 九州大学工学部土木工学科 助教授
2003年4月 九州大学大学院工学研究院 建設デザイン部門 指導教員(准教授)
2004年2月 同 教授 (現在に至る)
2009年4月～2012年3月 九州大学大学院工学研究院長、工学府長および工学部長(兼任)
2012年4月～2014年9月 九州大学副学長(兼任)

一 受賞歴一

プレストレストコンクリート技術工学協会賞(論文賞)
1993年 ほか

一 研究一

- ①複合構造の設計、開発に関する一連の研究
 - ・Mechanical Joints for Composite Construction, 12th IABSE Congress, 1984
 - ・立体トラス型ジベルを有する合成版構造の力学特性と設計法に関する研究, 構造工学論文集, Vol.34A, 1988 など
- ②FRPの土木構造物への適用に関する一連の研究
 - ・GFRP引抜き成形材の材料特性およびはり部材の曲げ挙動に関する基礎的研究, 土木学会論文集, A1, Vol.67, 2011 など
- ③既設コンクリート構造物の補強工法の開発に関する一連の研究
 - ・下面増厚したRC床版のせん断補強効果と疲労耐久性の評価に関する実験的研究, 土木学会論文集, Vol.63, No.4, 2007 など

一 業績一

- ①主たる著書
ブロック工法によるプレストレストコンクリート橋の設計と施工(共著、1992、九大出版会)、九州橋紀行(共著、1995、西日本新聞社)など。
- ②学会の役職等
土木学会西部支部幹事長(2002～2003)、土木学会構造工学委員会委員長(2011～2012)、土木学会理事(2012～2014)、九州橋梁構造工学研究会副会長(2013～)など。
- ③審議会等の委員(現在のみ)
国土交通省九州地方整備局事業評価監視委員会委員長、同橋梁保全検討委員会委員長、同筑後川・早津江川橋梁設計検討委員会委員長、福岡市橋梁アセットマネジメント推進委員会委員長、福岡北九州高速道路公社福北チャレンジ推進委員会委員長、NEXCO西日本関門橋大規模補修検討会委員長、同橋梁長寿命化検討会委員長など。
- ④その他工学に関する実績
日本工学教育協会常任理事(2009～2011)、九州工学教育協会会長(2009～2011)など。

講演概要

現存する我が国最古の鋼鉄桁と言われる110年超の明治橋(大分県)、80年超のRCアーチ橋の名島橋(福岡県)、40年超の吊橋の関門橋(山口県)等、これまで多少なりと関わった既設道路橋の損傷調査と補修計画立案の経験をご紹介します、橋梁長寿命化に対して学んだ知見について講演する。

FAX番号:092-475-6255

平成26年度

11月28日(金)

橋梁技術発表会

[九州地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

電話番号

FAX 番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無